

水害対策に関するアンケート調査結果（区内在住回答分）

1. アンケート概要

実施期間：令和8年5月21日から令和8年7月31日まで

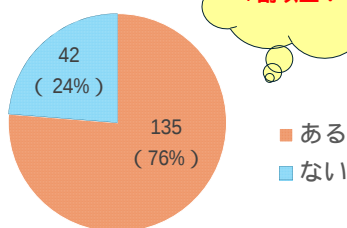
回答数：区内在住者 177件

本アンケートは、区民の水害・浸水リスクに対する意識、家庭での備えの状況、並びに区が設置する「土のうステーション」、及び、各種止水資機材の認知・利用実態を把握し、今後の水害対策事業の検討に役立てることを目的として実施したアンケートである。

2. アンケート結果

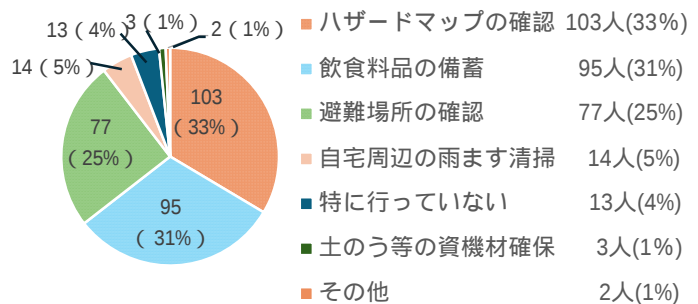
浸水不安・備え

（１）浸水への不安



不安がある人
7割以上！！

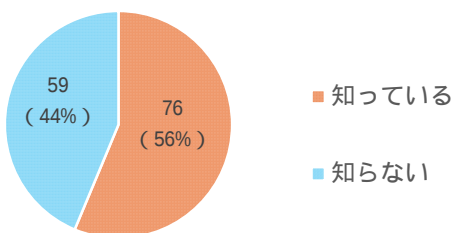
（２）家庭での備え（複数回答）



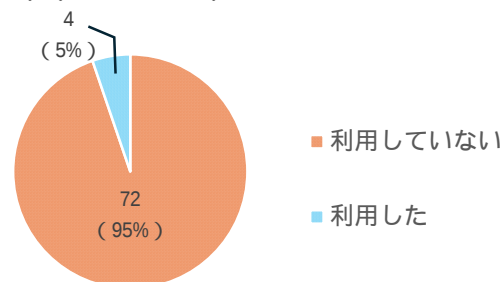
「浸水に対する不安がある」と回答した方や「ハザードマップの確認」等の家庭での備えに対する回答も多い結果から、近年激甚化する豪雨や台風等による水害に対する関心の高さが表れている。

土のうステーション

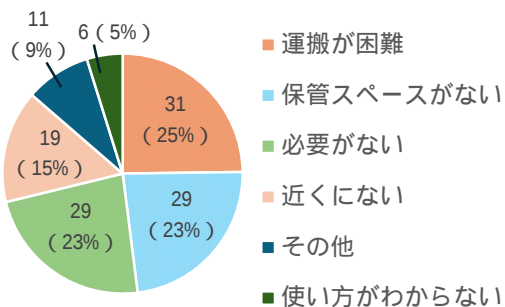
（３）土のうステーションの認知度



（４）（知っている方）土のうステーションの利用実態



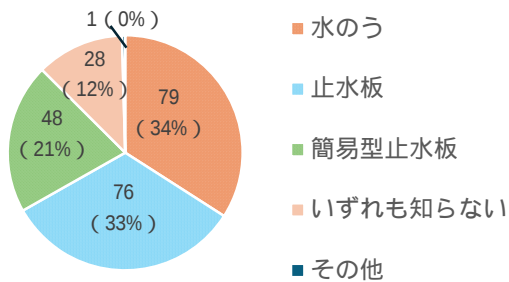
（５）利用していない理由（複数回答）



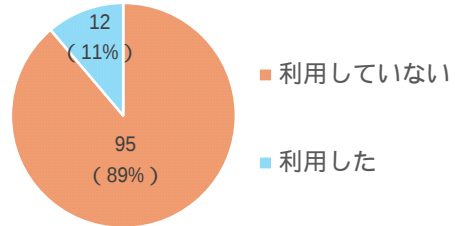
土のうステーションの認知度は半数未満にとどまった。
また、知っているが利用していない理由に、運搬が困難、保管スペースがない、土のうステーションが近くにない等の理由が挙げられた。

止水資器材の活用

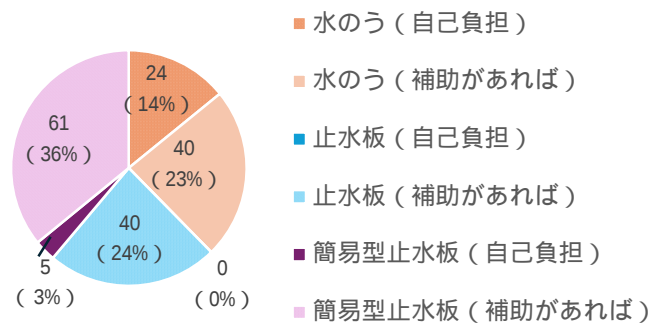
(6) 土のう以外の止水資器材の認知度 (複数回答)



(7) 使ったことのある資器材



(8) 今後使用したい資器材 (複数回答)



止水資器材については、認知度は高いが、実際には「利用していない」が大半を占めた。その理由には、使用方法の周知不足や公的支援の不足が考えられる。特に、止水板及び簡易型止水板では「補助があれば購入したい」という回答が多く、水害対策資材への支出を躊躇する傾向が見られた。

3.まとめ

本アンケート調査により、近年の大雨や台風の激甚化に伴い、区民の水害・浸水に対する関心および防災意識の高さが改めて確認された。

今後は、土のうステーションの設置場所や利用方法の周知を強化するとともに、自力での運搬が困難な方を対象とした運搬支援の周知徹底を図り、さらに防災フェスタ等のイベントを通じて止水板や水のう、土のうといった各種資器材の有効性や実践的な活用方法を広く発信する。これらを通じて、区民一人ひとりの防災意識の向上を図り、区全体の水害に対する備えを着実に推進していく。

なお、区外在住者 (69件) からの回答においても区内回答と同様の傾向が確認されており、共通した意識・ニーズが存在することが窺えた。

最後に、ご多忙のところ本アンケート調査にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。